



学校だより

正しい読み書き

校長 遠藤 康弘

「暑さ寒さも彼岸まで」と言われますが、秋分を過ぎてからは、長袖がほしくなる日もあり、ずいぶんと凌ぎやすい気候となっております。これからしばらくは、学習やスポーツ、読書と、何をするにも過ごしやすい季節となります。

過日の新聞に、学生の国語力についての特集がありました。高千穂商科大学の小林康一准教授によると、「ゼミで発表させると、『そして』『そして』『そして』：と連発する学生が大勢いる」と言うのです。ゼミについての連絡などをラインで送ると、「長いので切ってください」と言ってくる学生もいるとのこと。論理的に文章を組み立てるためには、理由を導く「なぜなら」や、前に述べたことと異なる内容につながる「しかし」など、文脈に応じて接続詞を使い分ける必要がありますが、短文に慣れ親しんでいるためか長文を嫌う傾向があるようです。

学生の卒論や企業資料の文案作成などを支援する会社は、「ここ三年くらいで急激に『そして』が増えた。問い合わせ文に絵文字を入れてくる学生も目立つ」と指摘しています。また、東京都内の大学教員によると、大学からメールを送ると、宛名も自分の名前もなく、「どこ行けばいいですか」と1行だけ返してくる学生もいるそうです。小林先生が同大学で教えるようになって十年。「日本語を組み立てる力は、以前の学生と比べて明らかに落ちている」と言います。

同様に、若者の「異変」として次のような内容もありました。「論述テストで接続詞の代わりに『↓』を使

教育目標

歴史を誇る久が原の大地に深く根を下ろし桜のように明るく潔く、樺のように天高く伸びてゆく

久原小学校に学ぶ子は、

- 一、健康な子
- 二、考える子
- 三、やさしい子
- 四、礼儀正しい子

う」「おじいさん、おばあさんは言えるが『祖父』『祖母』が出てこない」「『あなたのお母様』ではなく『あなたの母』と言う。理由を聞くと『母』は敬語だと思つた」「『きれいな』の否定形を『きれくない』と言う」「ビジネス文書に『！』がついていた」

特異な例かもしれませんが、テレビなどで若者の会話を聞いてみると、少なからず違和感を感じることがあります。国語力の危うさは将来の社会生活に大きくかかわっています。

スマートフォンを使って友人らと短文でやりとりできるラインは、単語や略語だけの気軽な「話し言葉」で通じます。その時の気分を絶妙なニュアンスで表す「スタンプ」を使えば、感情を言葉にする必要もありません。正しい日本語に触れる機会が減っている中、読書の価値は一層高まっていると言えます。SNSは大変便利なツールではありますが、「正しい読み書き」については、大人になる前にしっかりと身に付けさせたいと思っています。

運動会の練習もまとめの段階に入りました。学校では、各学年の団体演技や短距離走を安全に行うことができるよう、「安全指導のポイント」を共有し、指導に当たっています。子供たちがより一層伸び伸びと運動できるよう、環境を整え、支援していきたいと思えます。例年より縮小して行う運動会となり、保護者の皆様には御不便をおかけいたしますが、御理解、御協力のほどよろしくお願いいたします。

日	曜	予定	備考	日	曜	予定	備考
1	金	都民の日 放課後算数補習教室(3)		17	日	秋祭り&星空映画祭(おやじの会)	予
2	土			18	月	全校朝会 委員会活動	
3	日			19	火	能・狂言(校外)学習(4・6)	SC
4	月	全校朝会 委員会活動(教育実習始)	2年	20	水	B時程 放課後算数補習教室(4・6)	
5	火		SC	21	木		
6	水	B時程 4時間		22	金	生活科見学(1)	OP
7	木		OP★	23	土		
8	金	運動会リハーサル時程		24	日		
9	土	B時程 運動会		25	月	全校朝会 クラブ活動	
10	日	B時程 運動会予備日①		26	火		SC
11	月	振替休業日		27	水	B時程 児童集会	
12	火	安全指導 運動会予備日②	SC	28	木		SC
13	水	B時程 児童集会		29	金	生活科見学(2) (教育実習終)	放課
14	木	避難訓練(津波)	SC	30	土		
15	金	放課後算数補習教室(3)		31	日		
16	土	秋祭り&星空映画祭(おやじの会)					

(備) SCG: 佐々木スクールカウンセラー来校 SCU: 浦山スクールカウンセラー来校 校: 校庭開放

校長室オープンデー OP★: 10時~12時 OP☆: 16時~18時

支えられている自分から支える自分へ

家庭科専科 山本 泰平

家庭科は五年生から学び始めます。家庭科は自分の生活をより豊かにしていくため、また自らの生活に役立つ技能や知識を身に付けるために学習する教科です。「支えられている自分から支える自分へ」をキーワードとし、学習した内容を自らの家庭生活に生かし、実践していくことが求められます。

一学期の学習では、五年生は机の中の道具箱を整理することを通して、実際に自らの部屋や家庭のリビングを整理・整頓する方法を学びました。また、ただ方法を知るだけではなく、整理・整頓をする意義についても考えました。ふり返り活動の際には、「習慣づけて行うことが難しいと感じた。」という声や、「このまま整理・整頓をせずにいくと、大人になった時に困ると思った。」という声が聞こえ、学校の道具箱だけではなく、自らの部屋や身の回りの場所など、学習した内容を自らの生活に広げ、生かすことを理解しました。

そして、次のステップとして、自分は家庭の一員であることを自覚し、学習した内容を家族として生活する中に生かしていくことを学びました。具体的には、夏休みの宿題として「家庭の仕事をしよう」という活動を行いました。小学生が家事をする「お手伝い」と呼ばれることも多いですが、今回の活動においては、一人一人が家庭の一員として自覚と責任感を持ち、取り組むことが大切です。そのため、「家庭の仕事」をするという意識を持たせて取り組みました。また、家庭の仕事に継続して取り組むことで、家庭の中での自らの役割に気付くと共に、習慣として定着させるために、夏休み期間のみ取り組むのではなく、二学期以降も継続して取り組むように声掛けを行っています。その結果、皆熱心に取り組む、保護者の方からも「とても助かりました。」や「成長を感じました。」というお声を頂戴しました。

また、六年生は一学期の最後に、トートバッグの製作計画を立て、製作に必要な布を自分で買いに行くという見通しを持った学習をし、自らを自らが支えるという自覚と責任感を養いました。

こうした学習を、御家庭や地域の方々と協力して行っていききたいと考えています。今後はミシンを使った学習等、より実践的な内容の中で、「支えられる自分」から「支える自分」に成長できるように子どもたちを育てていきたいと思

早寝・早起き・朝ごはん月間

栄養士 大脇 遥香

朝ごはんを毎日しっかりと食べていますか？朝ごはんを食べることは、子供にとっても、大人にとっても、とても大切なことです。私たちの脳や体は、寝ている間にも動き続けていて、エネルギーを使っています。そのため、朝起きた時には、エネルギーが不足している状態になります。そこで、朝ごはんを食べることによって、脳や体にエネルギーを補給し、一日を元気に活動するための準備を整える必要があります。「ごはんやパンなどの主食+卵や野菜などのおかず」を基本の形とし、栄養バランスのよい朝ごはんを毎日食べるようにしましょう。しかし、栄養バランスのよい朝ごはんを毎日きちんと準備するのは大変なのではないでしょうか。夕食の残りのおかずや、冷凍した野菜を活用するなど、朝ごはん作りを簡単にする工夫も必要ですね。

大田区では、五月と十月を「早寝・早起き・朝ごはん月間」とし、早寝・早起き・朝ごはんの習慣を子供たちに身に付けてもらえるよう取り組んでいます。子供たちの健やかな成長のためには、早寝・早起き・朝ごはんの規則正しい生活習慣をきちんと身に付けることが大切です。この生活習慣が乱れると、学習意欲や体力、気力の低下などにもつながると言われています。また、子どもの頃の早寝・早起き・朝ごはんの習慣は、生涯の生活習慣の基礎となると言われています。平成三十年に行われた、全国の十八歳～六十五歳を対象にした、早寝・早起き・朝ごはんの効果に関する調査では、子どもの頃に早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身につけていた人は、大人になってからも「朝食を食べる」、「起床・就寝時間が早い」、「運動をよくしている」といった規則正しい生活習慣をしている割合が高いことが分かっています。

コロナ禍の今、疲れやストレスがたまっている人も多いのではないのでしょうか？そんな時だからこそ、早寝・早起き・朝ごはんを生活リズムを整えて、一日を元気に過ごせるようにしたいですね。

運動会に向けて

運動会委員長 安井 夏奈子

昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染防止のため活動が制限される中での運動会となります。団体競技、応援団、選抜リレー、係活動などが中止となります。制限がある中でも、「できることを精一杯やろう」という子ども達の気持ちで今年度の運動会をより一層盛り上げてくれると思います。運動会の練習も佳境に入ってきました。体育館での練習は、密を避けるため、学年を分けて練習を行ってきました。

校庭での練習が始まり、初めて学年全体が合わさると、「いよいよ運動会が近づいてきた。」という実感につながり、練習にもさらに熱が入っています。笑顔いっぱい楽しんで踊ったり、真剣な表情で踊ったり、各学年の表現種目の特徴に合わせて、それぞれが力を込めて練習をしている様子が見られます。当日は、子供たちの頑張る姿をぜひ御覧ください。開催に当たっては、参観者の皆様にも様々な制約で、御不便をおかけすることもあるかと思いますが、子供たちにとって心に残る運動会になるよう、御協力をお願いいたします。

子供たちに励ましのエールを

生活指導主幹 三上 真矢

長い夏休みが終わった直後の一か月。子供たちの様子はいかがだったでしょうか。九月は新型コロナウイルス感染拡大が心配される中での新学期のスタートとなり、少しでも子供たちの不安な気持ちに寄り添い、先の見通しがもたらぬコロナ禍の中でも、自分の可能性を気付き、自己肯定感を高めていくことがとても大切だと考えます。

そこで本校では、九月を『励ましの期間』と位置付け、子供たちが頑張っている姿を、これまで以上に教職員が一人一人に直接褒めることを行いました。授業中や休み時間、清掃活動中であつたり、全体の中や個別の対話の中であつたりと、タイミングよく、具体的に褒めることを実施しました。

〈給食準備を率先して手伝う児童に対して〉
「いつもありがとう。みんなから見えないところで動けるのは素敵だね。」
〈問題の解き方を友達に教えている児童に対して〉
「すばらしいね。困っている人がいたらサツと助ける姿勢が感動するな。」

この取組後、頑張りが継続するようになったり、他の児童も頑張りうとしたりと、行動が広がってきています。また、教室内のプラスの言葉がけにより、友達の良いところを探す子まで見られるようになりました。

これからも、子供たちのありのままの姿を価値付けるとともに、その良さや努力、成長を見付け、子供たち一人一人にエールを贈り、自分の良さに気付き、元氣や生きる意欲に繋がられるよう、教職員一同、一丸となって努めてまいります。

生活目標	健康な体づくりをしよう。
給食目標	好き嫌いなく食べよう。
保健目標	目を大切にしよう。
安全目標	白線の内側を歩こう。